

## コラム 松阪の相撲人気

江戸時代初期、寺社の建立・修繕資金を募るための勤進相撲が全国各地で発生し、中期には定期的に興行されるようになりました。やがて、將軍上覧相撲が行われるようになると、庶民の娯楽として爆発的な人気を誇りました。

宝暦から文政期の松阪の風俗・習慣を著した森壺仙著『宝暦ばなし』に、「船江八幡宮の会式角力は、その頃は賑わい」、「鞍馬山・源氏山・出羽崎という大角力が始めて来る。川井町裏にて興行、これより年々大角力来る」と綴られ、この頃より松阪の相撲興行が定着したと推測されます。

「勢州松坂大相撲勝負附」は、嘉永5年(1852)の百足町(西之庄町)の毘沙門寺境内において9月3日から7日まで興行された相撲の取組の勝敗を記したもので、大関・鏡岩浜ノ助や後の大関・小柳常吉、後の関脇・2代目常山五郎治の名前が見えます。ちなみに、彼らは2年後の嘉永7年、ペリー一行が浦賀沖に再来航した際に、ペリー提督への進物の運搬や相撲披露のために派遣され、その力は水兵たちを大変驚かせたといわれています。

この毘沙門寺での相撲興行のことは、本町の紙商・小津清左衛門家11代長柱の綴った日記に、8月24日鏡岩一行到着、同25日鏡岩へ振舞、同26日稽古相撲見物、同27日鏡岩・小柳・常山らへ振舞、9月3日(初日)花贈呈、7日鏡岩出立前の振舞、8日鏡岩一行出立、津まで奉公人見送り、と詳しく記されています。このように、長柱は相撲観戦を楽しむだけでなく、



相撲興行の様子(昭和49年岡寺山継松寺)

行っていたことが窺えます。

明治期には川井町や毘沙門寺のほか、西町の長竹庵跡・中町の岡寺山継松寺・日野町の弥勒院・殿町の代官小路などで興行されていたことが相撲番付から読み取れます。明治5年(1872)10月発行の相撲番付には、東の大関・境川浪右衛門、関脇・磐石力勝、西の大関・大纏長吉、関脇・小柳常吉などの名前が挙げられます。当時、境川と大纏の取組は人気を集めており、興行場所の継松寺でも大盛況を博したことが推測されます。

松阪における相撲興行の賑わいは、昭和14年3月に継松寺で撮影された1枚の写真にいきいきと写し出されています。力士の土俵入り、身動き

が取れないほど多くの観戦者の様子から、松阪の相撲熱の高まりを感じ取ることができます。また、この寺の山門前の一対の幟立ては、大相撲立行事13代木村玉之助と日野町の相撲世話人・古川忠七の寄進により、昭和3年3月に建立されたもので、相撲興行ゆかりの地であることを今に伝えています。

原田二郎旧宅では、企画展「松阪の相撲興行」(4月28日(火)~8月30日)を開催します。実業家・原田二郎は大の相撲好きで知られますが、少年期には松阪での相撲観戦を大に楽しんだのではないのでしょうか。

(学芸員 中戸)

## 歴史文化3施設のご案内

【開館時間】  
9:00~17:00 (16:30までにご入館ください)  
【休館】  
水曜日(祝日の場合は翌平日)

発行 NPO法人松阪歴史文化舎  
〒515-0082 松阪市魚町1653  
Phone 0598-21-8600 (事務所)  
E-mail info@rekishibunkasha.onmicrosoft.com  
HP https://matsusaka-rekibun.com/

【連絡先】  
◆旧長谷川治郎兵衛家  
Phone: 0598-21-8600  
◆旧小津清左衛門家  
Phone: 0598-21-4331  
◆原田二郎旧宅  
Phone: 0598-23-1656



本号は「春号」ということで端午の節句にちなみ、長谷川家に伝わる久保田米僊筆の武者図をご披露いたします。

この武者は、箱書きに「笠置山足助之次郎」とあることから、元弘元年(1331)に鎌倉幕府打倒を企てた後醍醐天皇方と幕府方との間で戦われた笠置山の戦いにおいて、後醍醐天皇方として奮戦した足助重範を描いたものと考えられます。甲冑に身を固めた重範の勇壮な姿が力強く表された作品です。

新緑の美しい季節を迎えました。当館では皆様に地域の歴史と文化に親しんでいただけるよう各種展示や催しを行っております。ぜひご来館いただき、ゆっくりとご覧いただければ幸いです。

# 今回の展示のみどころ！

## 旧長谷川治郎兵衛家

### 長谷川家ゆかりの画家 田南岳璋

たなみがくしやう

4月14日(火)～7月20日(月・祝)

田南岳璋(1876-1928)は松阪出身の日本画家で、数々の展覧会に出品して活躍しました。岳璋は地元松阪の商家長谷川家とも交友関係を持っていました。長谷川家八代元貞(雅号・六有)の末子である田中成章は、明治期に画家として松阪で活動しており、岳璋は成章に絵を学んだとされています。また11代定矩(雅号・可同)は岳璋の支援者の一人とされ、12代元収(雅号・素城)も岳璋に絵を学んだといわれています。本企画展では田南岳璋の作品とあわせて、長谷川家との関わりをご紹介します。



【芳名録(大正11年6月14日餅舎にて)】 田南岳璋 画

【展示解説】

5/16(土) 7/4(土) 11時より20分程度

## 旧小津清左衛門家

### 中南勢のやきもの



3月31日(火)～6月28日(日)

三重県の中央に位置する中勢や南勢地域では、さまざまなやきものが製作されてきました。三重県指定伝統工芸品の一つである松阪万古をはじめとして、同じ松阪の射和万古、また津の阿漕焼や伊勢の神路山焼など特徴のあるやきものが見られます。本企画展では、これらのなかから選りすぐりの逸品を集め、中南勢地域のやきもの魅力をご紹介します。



【淡々斎好赤絵皆具】松阪万古・佐久間勝山 作

【展示解説】

5/2(土) 6/6(土) 11時より20分程度

## 原田二郎旧宅

### 松阪の相撲興業 4月28日(火)～8月30日(日)

松阪では、明治期の相撲番付から西町の長竹庵跡・百足町(西之庄町)の毘沙門寺・中町の岡寺山継松寺などで相撲が興行されていたことが読み取れます。松阪は第57代横綱三重ノ海の出生地として知られ、実業家原田二郎も大の相撲好きであったといわれています。本企画展では、相撲番付などの資料を通して、松阪における相撲人気の高さをご紹介します。

【展示解説】

5/23(土) 7/18(土) 11時より20分程度



【相撲番付】(明治8年 長竹庵跡)

## イベントのご報告

### くずし字講座



旧小津清左衛門家において、「くずし字講座」を開催しました。本講座では、商家に伝わる古文書などを教材として取り上げ、実際の史料に記されたくずし字を読みながら、その内容を理解することを目指しました。

講座は第1回の11月17日に始まり順次、12月15日、1月19日、2月16日、3月16日の計5回、各回とも午前10時からの約1時間半、旧小津清左衛門家の落ち着いた雰囲気の中で、一字ずつ丁寧に文字を読み解きながら、当時の文化や生活の一端に触れていただきました。

教材のひとつに、享保3年(1718)に刊行された『古今名物御前菓子秘伝抄』を使用しました。本書は菓子製法を記した専門書で、当時の菓子づくりの様子を知る貴重な資料です。参加者はくずし字を読み進めながら、材料や製法の記述に強い関心を示していました。

実際の古文書を用いて文字を読み解くことで、江戸時代の記録がどのように書かれ、伝えられてきたのかを理解する機会となり、参加者からも好評を得ました。



【今名物御前菓子秘伝抄】

### 旧家で聴こう蓄音機の音色-唱歌と童謡-



3月1日、「旧家で聴こう蓄音機の音色-唱歌と童謡-」を開催しました。会場は、歴史ある旧長谷川治郎兵衛家の離れ座敷です。ここで長谷川家に伝わるSPレコードを蓄音機で再生し、往時の音色を聴いていただきました。

とくに童謡・唱歌に焦点を当てて選曲し、懐かしい音楽文化の一端をご紹介します。曲目には「証城寺の狸囃子」や「兎のダンス」などがあり、来場者はレコードの回転音とともに響く温もりある音色に耳を傾け、蓄音機特有の素朴な響きを楽しんでいました。旧家の落ち着いた空間の中で、昔の生活文化に触れることのできる有意義な催しとなりました。

